

香川県の裸麦新奨励品種「マンテンボシ」の特徴

大山興央・村上優浩・山田千津子・福島 淳・森 芳史・西村 恵・宮下武則

香川県農業試験場研究報告 第55号(2002年3月) 17-24

農林水産省四国農業試験場(現:近畿中国四国農業研究センター)において育成され、2001年9月に香川県の奨励品種に採用された。裸麦「マンテンボシ」の特徴等は以下のとおりである。

1. 形態的特性は「イチバンボシ」に比べて稈長は同程度で、穂長は短く、穂数は少なく、千粒重は「イチバンボシ」と同程度で、粒形は丸く、屑麦が少ない傾向がある。原麦粒の見かけの品質は「イチバンボシ」同程度である。
2. 生態的特性は、「イチバンボシ」に比べ出穂期が2日、成熟期が1日遅い早生種である。耐倒伏性は「イチバンボシ」より優れ、耐病性は赤がび病、うどんこ病とも「イチバンボシ」並みである。
3. 精麦白度、搗精時間とも「イチバンボシ」と同等で、精麦適性は高い。
4. 収量性は、「イチバンボシ」と同程度かやや多収であるが、多肥条件下ではうどんこ病の発生が増加するので、施肥水準は「イチバンボシ」と同等の総窒素量で0.9~1.1kg/a、このうち基肥窒素量は0.6~0.7kg/aとする。
5. 播種適期は「イチバンボシ」同様11月中旬~下旬である。

キーワード: 奨励品種、裸麦、マンテンボシ、品種特性、播種適期